

通常濃度酸素の約 2 倍量にあたる高濃度酸素の吸入により、健常犬において心拍、コルチゾール、オキシトシンに変化が見られました。

試験概要

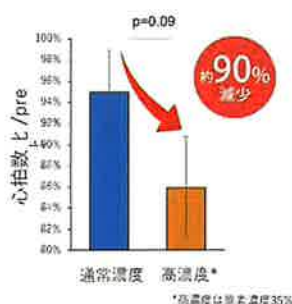
- 実施施設：北山ラベス株式会社成田バイオセンター
- 試験責任者：日本大学 生物資源科学部 獣医学科 獣医生理学研究室 教授 鯉江洋
- 対象：北山ラベス飼育犬 9 頭（オス 5 頭、メス 4 頭）
- 試験方法：三群（一群 3 頭）に分け、通常濃度酸素（約 20%）⇒高濃度酸素（約 35%）高濃度酸素⇒通常濃度酸素 にて検討を行った。
上記濃度環境下にある酸素室内にて、それぞれ 30 分間の酸素吸入を行った。
酸素吸入後唾液を経口採取し、コルチゾール、オキシトシン含量を測定した。



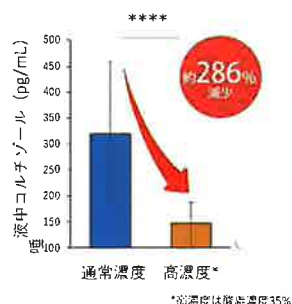
本研究は KBL 動物福祉委員会の審査を受け実施された（NBC60 - 011）

試験結果

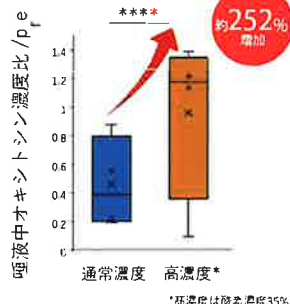
心拍数



コルチゾール



オキシトシン



考察

30 分間の高濃度酸素（35% 濃度）吸入後では通常濃度酸素（20%濃度）吸入時と比べ心拍数は減少し、ストレスホルモンであるコルチゾールは有意に減少した。幸せホルモンとしても知られるオキシトシンは有意に増加していた。

これらの結果から常圧高濃度酸素吸入は健康な動物に対してもリラックス効果を示し、循環器や免疫系に対する効果を示すことが明らかとなった。